

どーらく 改題 逆説土楽たより

断捨離考

2月号(NO5)通巻 155号

2019年2月10日(日)発行(毎月10日)

【農暦】縮んだ身体はずぼらを決め込んでいる！

○寒い日が続いている。31日夕方から雨模様で夜半に雪。久し振りのお湿りである。畑が真っ白になっていた。インフルエンザも流行っている。これで少し落ち着けばと思うのだが、1日の午後には日陰を除いて雪は消えていた。本来なら播種しなければならないのだが、空豆とスナックエンドウの苗を数株ずつ購入し、先週植えた。寒さ、乾燥、霜、風などもあってか枯れかけている。有機栽培を始めたころは種からやりなさいと言われていたのだが。最近はずぼらが極みになっている。苗をつくり販売してるおじさんからだったので、この寒い時季に定植して大丈夫かと尋ねたら、鉢の土を壊さずに植えれば問題なしと言われた。エンドウ豆などは播種し越冬が常識だったのである。考えてみれば、今の時期でも畑の環境で大差があるのである。昨年暮れ刈取った枯れ枝で霜避けをした。瀕死の重傷だが復活を期待している。(5日)

○今日は立春から5日目、朝から雪が降っている。庭は既に白くなっている。この頃はよく雪になる。季節の変わり目で、気団の入れ替わりの始まりが、そうさせるのだと思う。北海道の上空には強烈な寒気が流れ込んで、各地で冷え込みが強まっており、北海道陸別町で観測史上最も低い氷点下31度8分を観測したという。この寒さも春への折り返しなのかも知れない。



＜初雪＞少し積雪した。日陰以外は直ぐに溶ける。1日撮影

○節分の3日、スーパーの恵方巻の棚の周りには人ばかりで買うのに一苦勞した。売れ行きを見ながら追加を慎重にしている様に見えた。フードロスのニュースを意識しているようにも感じられた。関西の風習が関東にいつの間にか定着して来ている。商略恐るべしである。季節の移ろいを感じるのも良いものだと思いますが、今年も、恵方の東北東に向けて食べ、豆まきをした。年齢に合わせた数の分だけの豆を食べた。人事(人間;じんかん)を離れ、自然現象や超自然の事柄に思いを馳せることもありかなと思いつつしている。

○枯草の間からみどりが少しだけ見える。枯れ枝の芽がほんの僅かだが目立ってきている。芽吹きは春は近い。剪定残しのプラムの伸びた枝が気になっている。一日延ばしでやれていない。芽の出る前に剪定したいのだが、縮んだ身体はずぼらを決め込んでいる。春は意外に早い。土の中は春が始まっている。(了)

【菜農】休眠中 <畑>空豆とスナックエンドウを数株定植と霜よけなど。

【楽市】 イベント交流・直売など。

○イベントなど；山野草新年会（18日）笠吟連新年会（19日）詩吟例会（24、31日）共生の会、川柳の会（7日）に参加など。

【つぶやき=Tweet】 山の事では！今が無いが

○寒い日が続く 30日の朝日新聞に雲竜溪谷の写真が載っていた。50年前に登ったところである。氷瀑の記憶は薄れていたが、空き小屋風のところにツェルトに潜って仮眠したが、寒くて眠れなかったこと。当時は高価だった？腕時計を雪の中へ落とし無くしたことなど末節なことを覚えていた。3時間も登った記憶はない。懐かしい記事である。



＜雲竜溪谷＞日光の冬だけ神殿。登山口から3時間と。朝日30日。

○山の事では、山岳会創立70周年記念誌が送られて来た。山行記録や写真を見ながら一緒に登った山仲間が懐かしく思い出された。この会に参加出来たことは素晴らしい事だったのだと改めて思った。最近では山岳部OBの忘年会など欠席が多いが齢故もある。恩返し出来ないが少しでもかかわりが持てたら嬉しい。

○この中に、平標遭難とマツダランプのホウロウ製の道標の事が書かれていた。谷川岳は好きでいろいろなルートは何回も登った山である。書かれていたルートを50年前になるが縦走した。肩の小屋から万太郎へ稜線が素晴らしい事。仙ノ倉付近の避難小屋、平標小屋の近くにテントを張ったが風で木製支柱が折れ小屋に逃げ込んだことなどが鮮明に思い出された。遭難の事は知っていたが詳しい事は知らなかった。雨と風の荒れた天候で厳しかったが、マツダランプの道標に助けられ安堵したことも思い出された。平標小屋泊の翌日は荒天が嘘のような好天で法師温泉に入り帰った。出来たら簡単なコースでもと思う。

○北海道の氷点下の関連では-4度で水道管、-6度で窓、-10度でビール、-14度で日本酒、-15度でダイヤモンドダスト、-20度でまつ毛や眉毛、-30度で凍裂(大木が裂ける)という。笠間では蛇口栓抜きと湯沸かし器の電源ONは必須である。北海道ではもっとも必須がふえるのだと思う。谷川岳の西黒尾根を2月に登り、まつ毛、眉毛が凍てつき顔が凍傷になった。恐らく-20度になっていたのだと思う。雪庇の上を歩いていたこと。深さ7mほどのクレパスにも落ちたこと。危険を感じ途中下山したが未熟故危なかった。北海道の氷点下の事と朝日の記事で若い頃の雪山が思い出された。今が無いのが寂しい。

○北海道の氷点下の事と朝日の記事で若い頃の雪山が思い出された。今が無いのが寂しい。

○野田の10歳の少女の虐待死のニュースが繰り返し流れているが、今の世の中は悪い事ばかりである。厚労省のデータ改ざんなどと社会の信頼が揺らぎ、人生100年時代というが暗く心配ごとばかりである。若者、弱者の立場に立った本気の社会改革が必要である。

○断捨離は、雑物、雑誌少々のみ。

【後記】 寒いもいい笠間に Kogure 農場にお越しを。

【特に編集せずランダム構成にする】

発行者；小暮虎雄

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話；090-9333-4135

メール；torao-k@nifty.com

HP；kogure農場